

# 半導体漫遊記

125

## 湯之上隆

車載半導体売上高シェア1位(12%)のルネサス株をめぐって、さまざまな企業が買収を画策している。約70%の株を保有している政府系ファンドの産業革新機構が、売却を検討しているからだ。

そこでインフィニオンとしては、ルネサスを買収し、NXPグループを抜き返してシェアトップになりたいの

「ひとつ」であるが、「インフィニオンの傘下に入る」ということはあり得ない」と否定的な見解を述べている。

次に買収に乗り出したのは、紫光集団によるルネサス買収をトヨタ自動車が阻止するだ

「紫光集団によるルネサス買収を黙ってみているわけがないと思うのだ。中国の紫光集団とトヨタの一騎打ちかと思

は、ソニーの主力製品は、スマホのカメラなどに使われる画像センサー(CMOSセンサーと呼ぶ)で、ルネサスの車載半導体とはまるで製造技術が異なるから

しかし後になって考え直してみると、この買収が実現したら、極めて大きなシナジー効果が生まれるかもしれないと思いはじめた。それが、自動運転技術で

ルネサスは昨年、自動運転用のシステムLSI「rCar H3」を発表した。そして自動運転技術の確立には、画像センサーの存在が欠かせない。つまり、ソニーのCMOSセンサーとルネサスのシステムLSI「rCar H3」がセットになれば、自動運転技術という新市場を攻略できる可能性

## ルネサス買収、各企業画策

# ソニーが最適な道？

まず名乗りを上げたのはシェア2位の独逸ンフィニオンだ。2014年に、5位のオランダNXPセミコンダクターズが4位の米フリースケール・セミコンダクタを約1.4兆円で買収し、ルネサスやインフィニオンを抜いて合計シェア14.3%でシェアトップに躍り出た。

である。実際、インフィニオンとルネサスのシェアを合計すれば、22.5%となり、NXPグループを突き離すことができる。

「の背景には、中国が世界の半導体の約3分の1を消費しているにもかかわらず自給率が12.8%しかないこと、習近平・国家主席が半導体自給率向上のために「国家IC産業発展推進ガイドライン」を制定し「中国I

ルネサスは2012年に経営破綻寸前となった際、当時の赤尾泰社長は米投資ファンドに買収を打診した。ところが、ルネサスから車載半導体を市況価格の半額以下で調達していたトヨタは、ルネサスが外資に渡ることに猛反

収を黙ってみているわけがないと思うのだ。中国の紫光集団とトヨタの一騎打ちかと思

は、ソニーの主力製品は、スマホのカメラなどに使われる画像センサー(CMOSセンサーと呼ぶ)で、ルネサスの車載半導体とはまるで製造技術が異なるから

しかし後になって考え直してみると、この買収が実現したら、極めて大きなシナジー効果が生まれるかもしれないと思いはじめた。それが、自動運転技術で

ルネサスは昨年、自動運転用のシステムLSI「rCar H3」を発表した。そして自動運転技術の確立には、画像センサーの存在が欠かせない。つまり、ソニーのCMOSセンサーとルネサスのシステムLSI「rCar H3」がセットになれば、自動運転技術という新市場を攻略できる可能性

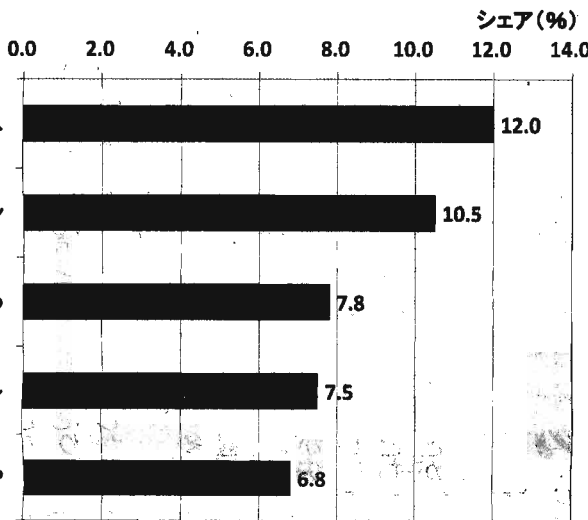


図1 2014年の車載半導体の売上高シェア

出所: Strategy Analytics, April 2015

(微細加工研究所・所長)